りびんぐらいぶず　令和2（2020）年3月第3号

蒟蒻（こんにゃく）問答の示唆するところ

◆釈　撤宗師の「蒟蒻（こんにゃく）問答」から

二代目林家正蔵が作ったといわれる**「蒟蒻問答」**という噺がある。

あるところに、ふらふらと遊んでいる遊び人の男がいた。男が食べるのに困って、昔の親分の六兵衛さんに御世話して貰いに行った。

一方、六兵衛さんは足を洗って堅気になって、蒟蒻屋をやっている。

男は「親分、昔のよしみで仕事を世話して貰えませんか。云っときますけどこう見えても今の私は身体が弱くて朝が早いのも、重たい物を持ち運んだりするのも無理ですので、できたら昼位まで寝てじっとして居て、日が暮れたらお酒がでてくるような仕事をお願いします」。

六兵衛さんは、「そんなもん、あるか」とたしなめて、「あんた、ちょっと心を入れ替えなあかんわ」と諭（さと）してみるも、「いや、ちょっと待てよ。そういうたら、うちの村のお寺は住職がおらんようになって困ってたんやった。あんた、そこへニセ住職で入り込んだらどうや」と言い出すんですね。

「えっ、そんなんしていいんですか？」

「どうせお経は、誰が聴いても分からへんし、お寺の住職っちゅうのはだいたいごろごろしていても務まる」等と話が進みます。ご住職方にとっては失礼千万な話ですけどね(笑)。

「そうなんですか。そしたら私、そうさせてもらいます」と、この男はニセ住職として入寺してしまうんですね。

そこは禅宗のお寺だったからですが、権助という寺男がいるんです。

権助は、この男が偽物やとすぐ分かるんですね。怒って叩き出すかと思いきや、あんたでもええからおってくれ」と云うんですね。

「このままやと、わし、もう仕事がなくなって田舎へ帰らなあかんかと思って居たところや。住職がおらんと寺男の仕事はなくなってしまうんで、あんたでもええからおってくれ」というので、すっかり気が合って毎日二人は酒を飲んでごろごろして暮らします。

そこへ永平寺から雲水がやってくるんです。

それで「禅問答をお願いします」と言うんです。「もし、禅問答に負けたら、われわれのルールで、このお寺を出て行って貰わねばならないんです。よろしくお願いします」と云うんですね。

もちろ禅問答なんかできないわけですから、男は、

「いや私、住職ではなく留守番の者なので、とりあえず、帰ってもらえませんか」、

「ご住職はお留守ですか。じゃあお帰りになるまで待たせて戴きます」。

「いや、今日帰ってくるかどうか分からないんですよ。とりあえず、帰ってもらえませんか」。

「今日帰ってこられない。そうですか。じゃあ、明日また来させて戴きます。私は修行中の身、急ぎませんのでお合いできるまで毎日通わせていただきます。失礼します」、ととりあえず、その日は帰ってしまったのです。

ニセ住職は「困った。禅問答はせなあかんし、まけたら寺をでていかなあかんらしい。いまのうちに寺の家財道具を売り払って逃げたれ」と悪いことを考えついて権助と二人で荷造りを始めるんです。そこへ六兵衛さんがたまたまやってきて、「何してんのや、あんた、わしの紹介で入寺してもろたんやから、わしが村におれんようになるがな」。

「でも禅問答とか、とてもじゃないけどできないですよ」。

六兵衛さんは「そうか、それは困ったなあ。ようわからんけど、問答というんやから、質問に受け応えして勝ったり負けたりするんやろ。とりあえず、わしが住職に化けて相手が諦めて帰るまで、ずうっと黙っとくは」。

というわけで大雑把な作戦を立て、六兵衛さんが、頭に帽子をいただき、手に払子を持って、大きな袈裟を付けて待ちます。

やがて雲水がやって来ます。

「これはこれはご住職ですか。禅問答をお願いします」と、立て板に水のように禅問答をだあっと仕掛ける。だあっと仕掛けるんですけど、聞いているのは蒟蒻屋の六兵衛扮する住職ですから、云うていることがさっぱり分からん。だから、じいっと「早う帰らんかな」と思いながら黙って座っているんです。

すると雲水は、「これはこれは失礼しました」とか言い出し、「どうやらご住職は無言の行中であられるようです。しからば、私も」と雲水も黙り、二人は黙ったまま対面します。

雲水の方は、何とか言葉を使わずに問答をしかけようとする。最初、雲水は住職に向かって、「両手で◯を作ります」。すると六兵衛さんの住職がそれを見て「両手で大きな◯をつくる」。雲水は、ハットなって考え、次に「手で十を示します」。六兵衛さんはそれを見て「手で五をしまします」。雲水は脂汗を流して考え、「手で三を示します」。六兵衛さんは、それを見て、「あかんべえ」の表情をつくる。

すると雲水は「恐れ入りました」と平伏し、「私、少々修行を積んだと思って、どうやらいい気になっておったようです。今日という今日は大変有り難い教えをいただきました。自分というものが、ぽっきり折られた思いです。失礼しました」とか云って帰って行く。

見ていたニセ住職の男が雲水を追いかけて行き門前で「あんた、もう帰るんか」と呼び止めます。

すると雲水は「いやあ、有り難い教えをいただいた」と感動しているんです。

さっき、無言のやりとりをしていたけどあれは何をしていたんや。

すると雲水は、無言の行で仕草問答をお願いしたのです。

最初「あなたの胸中はどのようなものですか」と訊ねたところ、住職は即座に「大海のごとし」とお応えになった。これは大変な人に出合ったとすぐ分かりました。
次に私は「十方世界（われわれの世界）はどう生きればいいのか」とお訊ねしました。
すると住職は「五戒で保つ「殺生をしない。嘘を言わない。人の物を盗まない。…お酒を飲んで酔っ払わない」という五つです」とお説きになった。
これはもう足下にも及ばない。大変な名僧にであった。しかし、私も永年修行を積んだ身、せめて、もう一問というので「三尊の弥陀は」と問いましたという。これは仏教そのものを問う本質的な問いなんでしょう。
「仏道はどこにあるんだ」と雲水が問うと蒟蒻屋の住職は、「お前の足元に道はあるぞ、お前の足元に仏法はある。どこをみているんだ。脇見をしてどうする。お前のすぐ目の前に仏法はあるじゃないか」という風に説いたことになるわけです（Ref。釈　撤宗　2019年2月3日 真宗教団連合 真宗のつどい 滋賀県支部 『お正信偈に聴く』p54～54）。

◆歩み続けるからこそ見える光景がある

　三人の登場人物の中で一番会得したのは誰か。何といっても見事に仏法を会得した雲水さんでしょう。ガラクタを並べられているのに、見事に仏法を聴いて帰ったからです。どうしてこういう勘違いが起こるか、それは雲水さんがいつも求めていたからです。合掌。
（**後書き**）本号は、随分はしょった蒟蒻問答だけで紙数が尽きてしまい、ご讃題のご案内もせずに終ってしまいました。噺を味わう程に、当院住職の体験では、合掌礼拝の意義を尋ねた二歳の女の子の問いが、最も近いと思われました。しかも、作り上げた噺ではない。人間世界の感動は日常の中にこそあるという意味で。合掌。
（**HPへのアクセス法**）　「正覚寺　北小松」、「正覚寺　滋賀県」等で検索なさって下さい。

◆仏教壮年会お聴聞の会　今月度は、新型コロナウイルス対策の為お休み致します
◆仏教婦人会例会　　今月度は、お休み致します
◆降誕会（ごうたんえ）法要　今年度は、お休み致します。

著作編集兼発行元（本願寺派 正覚寺内）〒520-0501 大津市北小松四五二番地
TEL077-596-0166、FAX077-596-0196 住職 堅田 玄宥